

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市市民ミュージアム	評価対象年度	平成29年度
事業者名	アクティオ・東急コミュニティー共同事業体 代表者 アクティオ株式会社 代表取締役社長 鈴木 悟 東京都目黒区下目黒1-1-11目黒東洋ビル4階 構成員 株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長 雑賀 克英 東京都世田谷区用賀4-10-1	評価者	市民文化振興室長
指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日	所管課	市民文化局市民文化振興室

2. 事業実績

○前年と同様の取組 ●新規または前年から変更した取組

利用実績	【総利用者数】	平成29年度	平成28年度	平成27年度
	(1) 常設展示	282,211人	181,910人	177,176人
	(2) 企画展示 有料	49,219人	11,403人	16,821人
	無料	66,479人	39,166人	29,143人
	(3) 映像ホール 有料	8,909人	7,129人	3,514人
	無料	4,604人	3,429人	3,634人
	(4) ミニホール	1,255人	810人	1,147人
	(5) 館内イベント・講座等	12,971人	6,248人	5,699人
	(6) ミュージアムライブラリ(映像)	3,597人	3,005人	3,368人
	(7) ミュージアムライブラリ(図書)	7,693人	5,669人	6,655人
(8) ミュージアムライブラリ(閲覧)	27人	103人	-人	
(9) 研修室等利用者	1,062人	665人	676人	
(10) ミュージアムキヤラー1	2,083人	2,156人	979人	
(11) ミュージアムキヤラー2	0人	63人	0人	
(12) 館外展示・出張プログラム等	1,063人	1,083人	1,204人	
※H28は改修工事のため1月16日から3月31日まで休館				
企画展示	【企画展示】	平成29年度	平成28年度	平成27年度
	企画展	18事業 115,698人	17事業 50,569人	15事業 45,964人
	他団体の展示等	15事業 110,100人	13事業 41,694人	12事業 40,974人
かわさき市美術展の応募数	【かわさき市美術展の応募数】	平成29年度	平成28年度	平成27年度
		6部門 266点	6部門 192点	6部門 216点
映画上映	【映画上映】	平成29年度	平成28年度	平成27年度
	上映数・作品数	15事業 11,136人 174回 96作品	17事業 8,481人 164回 107作品	11事業 5,212人 166回 225作品
教育普及事業	【教育普及事業】	平成29年度	平成28年度	平成27年度
	社会科教育推進事業	76講座 254回 10,143人		
	ボランティア登録者数	88校	81校	70校
収支実績	(1) 収入	486,569千円	(2) 支出	474,525千円
	内訳： 指定管理料	424,779千円	内訳： 人件費	193,864千円
	利用料金収入	390千円	管理費	147,450千円
	企画展事業	34,718千円	事務費	37,111千円
	映像ホール事業	4,932千円	事業費1	86,851千円
	教育普及事業	850千円	事業費2	9,249千円
	特別利用料金収入	173千円		
	図録	112千円	※事業費1は企画展・映像ホール・教育普及事業	
	ミュージアムショップ	20,278千円	※事業費2は事業費1以外の事業費	
	その他	337千円		
(3) 収支差額	12,044千円			
サービス向上の取組	【地域との連携】	●敬老の日に65歳以上の来館者の企画展観覧料を無料とし、中原区内の保育園児が作成した折り紙や工作をプレゼントするなど、地域との連携や交流推進を目的とした取組を行った。また、等々力緑地で開催される中原区民祭当日の来館者の企画展観覧料を無料とし、緑地に位置する施設の一員として地域と連携し、美術の観覧を通じた多くの区民の交流を目的とした取組を行った。		
	【夏休み期間に合わせた開館延長】	●夏休み期間中の小中学生や親子連れが多く来館されることを想定し、3Dトリックアートと木製からくり玩具による体験型の企画展示「からくりトリックの世界展」の会期に合わせ、土曜日に2時間の開館延長(計6日間、閉館17時を19時に変更)を行った。		
	【開館の日イベント】	●ミュージアムへの親しみや、子どもたちの收藏品に対する興味・関心を育むことを目的に、收藏品「画図百鬼夜行」より、鳥山石燕が描いた「猫また」ほか5匹の妖怪をモチーフに、「ニヶ領用水」など川崎の歴史や收藏品に関するクイズを解く「ねこようかい大脱出ゲーム」を実施した。		

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度・事業成果	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	4	8
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	8	4	6.4
		当初の事業目的を達成することができたか			
<p>(評価の理由)</p> <p>【利用者満足度】 ●窓口やご意見箱、企画展・常設展アンケートの実施により、利用者の満足度やニーズ、意見・要望などを把握している。窓口やご意見箱に寄せられた意見に対しては、館長及び部門長で対応を協議・検討し、企画展・常設展アンケートに関しては職員全員に回覧するとともに、必要に応じて朝礼で報告するなどして情報共有されている。また、寄せられた要望に対しては、下記のとおり対応可能なものは速やかに改善し、高い利用者満足度を獲得できるよう努めている。(対応具体例: エントランス・ラウンジ・テラスへの椅子の増設、ラウンジの手洗いの機能改善、ライブラ利用者の飲み物可能スペースやキッズスペースの新設、チケットが完売した映画の再上映等) ○企画展アンケートでは、各企画展の「大変満足」「満足」の合計が平均で94.5%、常設展アンケートでは、「全体的な満足度」の項目で88%、「解説シート」の項目で84%、「体験コーナー」の項目で88%と、いずれも概ね高水準を得ている。今後の利用者満足度を向上させるため、利用者ニーズを業務に反映する継続的な改善とサービス向上の取組が必要である。</p> <p>【事業成果】 ●年間総利用者数は282,211人となり、指定期間の最終年度の目標として掲げた目標を初年度で達成した。開館(昭和63年11月)翌年度の311,576人に次ぐ利用者数であったとともに、企画展の入館者数(110,100人(有料・無料含む))は開館以降の最高数となった。特に、日本・デンマーク国交樹立150周年を記念し、ハンス・クリスチャン・アンデルセン博物館の所蔵品と親子で一緒に楽しめる体験型の展示で構成した「アンデルセン展」や、夏休み期間中の小中学生をターゲットに、3Dトリックアートと木製からくり玩具による体験型の展示で構成した「からくりトリックの世界展」、公の施設では初の取組であり、みうらじゅん氏のコレクションを一堂に集めた「みうらじゅんフェス!マイブームの全貌展」など、指定管理者ならではの時宜を得た企画や、他にはない初の取組、効果的な営業・広報により集客した点が評価できる。 ○企画展の成果に牽引され総合的に見ると事業実績は良好だが、相対的に見ると博物館展示での実績に向上の余地がある。博物館と美術館の複合施設として、相互にバランスがとれた事業成果となることが望ましい。</p>					
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	4	6.4
		支出に見合う効果は得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	4	4	3.2
		収入増加のための具体的な取組が為されているか			
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	4	3	2.4
事業収支に関して適正な会計処理が為されているか					
<p>(評価の理由)</p> <p>【効率的・効果的な支出】 ●企画展の一部変更等により企画展事業費の支出が予算比で17,672千円・52%の増となったが、企画展事業収入も予算比で26,143千円・305%の増となっていることから、総合的に見ると支出に見合う観覧料収入を得た点が評価できる。予算では、企画展事業収入(8,575千円)と企画展事業費(34,000千円)の比率を約25%で計画したが、決算では企画展事業収入(34,718千円)と企画展事業費(51,672千円)の比率が約67%となり、企画展事業における収支比率は予算計上時と比して大幅に向上している。 ●川崎記者クラブへの報道投込による新聞掲載や市内小・中学校へのチラシの配布だけではなく、市政だより、市内広報掲示板・広報コーナー、市ホームページ、かわさきイベントアプリへの掲載等、本市が持つ広報媒体を積極的に活用するとともに、公式ホームページ及びブログの更新や、ツイッターとフェイスブックに加え、新たにインスタグラムのアカウントを開設するなど、多様な媒体を活用し、かつ経費がかからないながらも高い効果が見込める広報に努めた。 ●設備等の不具合事項を修繕計画表にて洗い出し、市との定例会議等で協議・検討したうえで、消防設備や空調設備等、市民利用に影響が大きい案件から優先的に修繕を実施することで、修繕費の効率的な執行に努めた。</p> <p>【収入の確保】 ●「みうらじゅんフェス!マイブームの全貌展」の高い集客力により、企画展全体の観覧料収入が予算比で26,143千円・約305%の増となった。収入決算の総額においても、予算比で39,341千円・108%の増となり、計画以上の収入を得ることができた。 ●中原区に本社を置く企業10社の他、近隣の障害者福祉施設7館、近隣の町内会長、商工会議所等を訪問し、企画展の案内や貸館のPRを行うなど、収入の確保に向けた営業活動に取り組んだ。 ●NHK教育テレビ「天才てれびくんYOU」の生中継ロケ撮影を受入れ、逍遥展示空間やミュージアムギャラリーの貸館によりロケ収入を得た。 ●ミュージアムショップでは、企画展や映画上映に関連した書籍や雑貨、障害者福祉施設の手作り雑貨、「かわさき名産品」や地元企業の製品、フロンターレグッズなど、館の企画と連動した商品や川崎ゆかりの商品を取り揃えるとともに、LED照明への交換などにより明るい雰囲気づくりに努め、2,851千円の利益を決算に計上している。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	指定管理業務や自主事業が仕様書や事業計画等に基づいて適切に提供されたか	12	4	9.6
		基本理念等に基づき、適切なサービスが提供されたか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		新規及びリピーター確保に向けた付加サービスの取組が為されているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	3	3.6
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4	4.8
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	(評価の理由)				
<p>【適切なサービスの提供】</p> <p>●川崎ゆかりの日本画家である大矢紀氏の画業を展覧した「大矢紀展」や、アートギャラリーで開催した「福田繁雄の視覚トリック展」、「追悼 松本俊夫展」、「こっぼんアニメーションことはじめ」、「川崎ヒストリー展」など、これまでミュージアムが蓄積してきた豊富な収蔵品を無料の展覧会として広く市民に公開するとともに、展覧会への理解や関心を深めるための取組として、学芸員によるギャラリートークや映像ホールにおける関連上映・講演会、関連ワークショップ等の普及事業を展開した。</p> <p>●鳥山石燕が描いた「猫また」ほか5匹の妖怪(収蔵品「画図百鬼夜行」より)をモチーフに、「ニヶ領用水」など川崎の歴史や収蔵品に関するクイズを解きながら参加する「ねこようかい大脱出ゲーム」を、11月3日の「開館の日イベント」として実施し、ミュージアムへの親しみや、子どもたちの収蔵品に対する興味・関心の向上に寄与した。</p> <p>●「かわさきマスター20年展」(企画展示室)、「2017川崎フロンターレ展」(アートギャラリー)、「川崎ゆかりのゴジラ映画」及び「映画で見る昔の川崎～所蔵作品名品集～」(映像ホール)の同時期開催により、館全体として川崎にスポットを当てた企画を展開した。また、企画展と連動した映像ホールでの企画上映(5事業)、ミニホールでの関連作品上映(5事業)、ライブラリーへの企画展関連図書コーナーの配置、教育普及事業など、企画展のテーマを軸にミュージアムの多様な機能を活用した取組を連動させ、複合施設であるミュージアムの特徴を活かした事業展開が実施された。</p> <p>●第51回目を迎えた「かわさき市美術展」では、出品者の選択肢を広げるため、1人1部門1点までだった応募点数を2点までに変更し、応募作品点数は平成28年度の192点から74点増加し266点となった。「シニア大賞」の新設や、かわさきマスターの題字デザインによる募集要項の一新など、歴史ある美術展の活性化に向けて取り組んだ。</p> <p>●常設展示の見学・解説などを行う「社会科教育推進事業」では、小学校4年生の学習単元「昔のくらしと町づくり」の一助とするために、指定管理者が参加希望校との日程調整を綿密に行い、荒天で中止となった学校を除く参加希望全88校を受け入れ、平成28年度の実績と比較し7校の増となった。</p> <p>●新聞・雑誌・市政だよりへの掲載、公共機関・学校等へのパンフレットの配布、屋内外への看板設置、交通広告やホームページ・ブログ等、多様な媒体を活用した広報を展開するとともに、SNSにおいては従前のツイッター、フェイスブックに加え、新たにインスタグラムのアカウントを開設した。また、ツイッターから636回、フェイスブックから264回、インスタグラムから86回の情報発信を行い、年間フォロー数はツイッターが928名の増、フェイスブックが390名の増、インスタグラムでは232名の純増となった。</p> <p>●夏休み期間中の企画展示「からくりトリックの世界展」の会期に合わせ、小中学生や親子連れに館内で長い時間展示を楽しんでいただけるよう、土曜日に2時間の開館延長(計6日間、閉館17時を19時に変更)を行った。SNSやHP等による発信の他、夏休み前の報道投込により14件の新聞掲載があり、同展示の来場者数22,219人のうちの約半数が小中学生となったことから、ターゲットと時宜を捉えた効果的な企画と広報を展開することができた。</p> <p>●ミュージアムショップでは、企画展や映画上映に関連した書籍や雑貨、障害者福祉施設の手作り雑貨、「かわさき名産品」や地元企業の製品、フロンターレグッズなど、館の企画と連動した商品や川崎ゆかりの商品を取り揃えるとともに、LED照明への交換などにより明るい雰囲気づくりに努め、ミュージアムショップの魅力向上に努めた。</p>					
<p>【業務改善によるサービス向上】</p> <p>●当初計画を変更し、敬老の日に65歳以上の来館者の企画展観覧料を無料とし、中原区内の保育園児が作成した折り紙や工作をプレゼントするなど、地域との連携や交流推進を深めるための取組を行った。また、緑地に位置する施設の一員として、等々力緑地で開催された中原区民祭当日の来館者の企画展観覧料を無料とし、地域と連携し、美術の観覧を通じた多くの区民の交流を目的とした取組を行った。</p>					
<p>【利用者の意見・要望への対応】</p> <p>●窓口、ご意見箱(74件)、常設展アンケート(264件)、企画展アンケート(4,560件)の実施により、利用者の満足度やニーズ、意見・要望などを把握している。窓口やご意見箱に寄せられた意見に対しては、館長及び部門長で対応を協議・検討し、常設展・企画展アンケートに関しては職員全員で情報共有するとともに、必要に応じて朝礼で報告するなどしている。また、寄せられた要望に対しては、エントランス・ラウンジ・テラスへの椅子の増設、ラウンジの手洗いの機能改善、ライブラリー利用者の飲み物可能スペースやキッズスペースの新設、チケットが完売した映画の再上映など、対応可能なものは速やかに改善し、高い利用者満足度を獲得できるよう努めている。</p> <p>●映像ホールでの企画上映「ゴジラ再上陸～シン・ゴジラ公開1周年記念特集～」では、チケットが完売し大変好評であった反面、これまでの実績上完売する企画が稀であったため、満席でお断りした利用者から混雑状況や満席になる可能性があることを事前周知するよう要望を受けた。その要望を受け、SNSを活用してそれらの情報を事前にアナウンスするとともに、他にも同様の利用者があったことに鑑み、作品の再上映を決定し、ホームページでの公開や報道機関への情報提供等を行い、周知・広報に努めた。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	6	3	3.6
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか	2	3	1.2
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか			
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	4	3	2.4
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	2	1.6
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	2	3	1.2	
(評価の理由)					
<p>【適正な人員配置】</p> <p>●館長の配置に加え、施設規模の大きさに鑑み、館長をフォローする形で公共施設の館長経験歴のある者を統括館長として配置した。 ○指定管理初年度であり経験年数が浅い学芸スタッフもいるが、労働条件や労働環境の整備などに努め、安定的な運営につながるよう、効果的な組織体制の維持に期待する。</p> <p>【連絡・連携体制】</p> <p>●所管課との定例会議を月1回実施し、事業の実施状況や運営上の課題等に関する情報共有及び各種調整を行うなど、より良い施設運営に向けた連絡・連携体制が十分に図られている。</p> <p>【担当者のスキルアップ】</p> <p>●運営スタッフのホスピタリティ向上を図るため、入社時の接遇マナー研修や、企画展ごとに学芸員の解説による知識取得研修を実施した。学芸スタッフが外部研修会に参加して知識向上を図るだけでなく、担当者が自主的に文化財IPMコーディネーター(※)や文化財虫菌害防除作業主任者の資格を取得するなどスキルアップに努めた。(※IPMとは総合的病害虫管理(Integrated Pest Management)の略)</p> <p>【安全・安心への取組】</p> <p>●市の災害時における帰宅困難者の一時滞在施設に指定されていることから、災害時における不測の事態を想定し、広い館内で円滑な連絡体制が取れるよう、事務室から中央監視室まで通信可能な無線機を導入した。併せて、防災・避難誘導訓練及びAED講習を2回ずつ実施し、災害発生時に適切に対応できる体制を整えている。</p> <p>【コンプライアンス】</p> <p>●所蔵フィルムを活用した特集上映「チェコ・アニメーション名品集」において、上映権が他の会社に移っていたことが判明し、上映中止を余儀なくされた。報道機関への情報提供やホームページ等での中止の周知、他の作品の無料上映を実施するとともに、期間中に中止を知らず来館された方への現場対応が丁寧であったため苦情には至っていない。約300件の所蔵フィルムがあることを確認し、企画立案の際には上映権の有効性を必ず確認する旨、再発防止策として指定管理者から報告を受け市が確認をした。</p> <p>【環境負荷の軽減】</p> <p>●3階廊下とミュージアムショップの照明LED化工事、バックヤードや職員専用の階段等のこまめな消灯、空調の設定温度の調整等、消費電力の低減と環境負荷の低減を図るとともに、PPCにはエコ紙を採用し消耗品の調達はエコ商品を優先した。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	18	3	10.8
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	収蔵品管理	収蔵品は仕様書等に基づき、適切に保存・管理されているか	6	3	3.6
(評価の理由)					
<p>【施設・設備の保守管理】</p> <p>●老朽化している設備が多い中で、保守点検に基づく施設等の不具合事項を修繕計画表にて洗い出し、市との定例会議で協議・検討したうえで、消防設備や空調設備等の市民利用に影響が大きく優先順位の高いものから適切に実施している。</p> <p>【清掃業務】</p> <p>○日常清掃、定期清掃により清潔な美観と快適な環境を維持している。</p> <p>【警備業務】</p> <p>○常駐警備(24時間×1ポスト、日勤×1ポスト)、機械警備、巡回警備を適切に実施し、事件・事故・犯罪等を未然に防止できている。</p> <p>【収蔵品管理】</p> <p>○適正な温湿度管理を実施するとともに、週に1度収蔵庫内のロガーのデータを確認している。保管資料の燻蒸や、毎月の環境測定にて、害虫・浮遊菌・酸性値等をモニタリングしている。</p>					

4. その他加点

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
その他 加 点	市の政策課題への取組	例) 第三者へ一部の業務委託を行う際、市内中小企業者の受注機会の確保・拡大 地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力 市制100周年に向けた取組 障害者の法定雇用率を越える雇用 など	5	3	3
	(評価の理由)	<p>●清掃業務、警備業務などの施設管理業務において市内中小企業を活用している。</p> <p>●beyond2020の認証を得て映像ホールで上映した、知的障害を持つアーティストの記録映画「まひるのほし」や、肢体不自由児養護施設の子どもの絵画を紹介した「虹をかける子どもたち」では、障害者の創作活動に関する映画の上映を通じて、個性が輝く多様性の素晴らしさや共生社会について取り上げた。「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ～ことばで旅するコレクション～」では、作品の色やかたち・大きさ・感じたことや印象等を自由に語り合い、障害の有無に関わらず、参加者同士が新しい美術の楽しみを発見することを目的として開催するなど、本市が取り組むかわさきパラムーブメントに資する取組とすることができた。</p> <p>●市がロケに協力し武蔵小杉が重要な舞台として描かれた「シン・ゴジラ」とゴジラ旧作を、「ゴジラ再上陸～「シン・ゴジラ」公開1周年記念特集～」として「映像のまち・かわさき」連携上映として企画上映した。同連携上映として、市内でロケ撮影が行われ、川崎が舞台となった所蔵作品の特集上映「映画で見る昔の川崎～所蔵作品名品集～」や、幸区で開催された「毎日映画コンクール表彰式」の時期に合わせた「毎日映画コンクールを彩った男優たち～毎日映画コンクール川崎開催記念 過去受賞作品～」を企画上映した。また、プレスリリースの際に各事業と併せて「映像のまち・かわさき」の取組を紹介するなど、「映像のまち・かわさき」推進事業との連携や周知に取り組んだ。</p>			

5. 総合評価

評価点合計	71.8	評価ランク	B
-------	------	-------	---

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>川崎市市民ミュージアムは、「考古、歴史、民俗、美術、映像等に関する資料及び作品について収集、展示、調査研究等を行うこと等により、市民の観覧、学習、研究等に資するとともに市民相互の交流を推進し、もって市民の教育、学術及び文化の発展に寄与する」ことを目的として設置した博物館・美術館の複合施設である。</p> <p>本施設は、昭和63年11月に開館し、平成29年度に市の直営管理から施設管理・学芸業務ともに指定管理者制度を導入した。そのため、今回が現指定管理者の初年度の事業評価であると同時に、制度導入初年度の評価でもある。</p> <p>指定管理者を募集するにあたり、本市が仕様書で「指定管理者に求めること」として、①「民間事業者としての柔軟な発想及び独創性、さらにはこれまで蓄積してきた研究成果を引き継ぎ、サービスの向上や魅力ある企画の実現など、事業の充実と新たな来館者の創出に向けて創意工夫するとともに効率的な運営に努めること」、②「指定管理者には優れたマネジメント力、博物館・美術館の専門分野に関する豊かな知識と高度の専門性の継続と蓄積」、③「市文化施設の管理運営にあたる者として、特定の利益や価値に左右されない、高い公益性と信頼性」の3点を示していることから、全体評価に当たってはこの3点の視点に基づき評価する。</p> <p>①年間総利用者数は282,211人となり、指定管理者が指定期間の最終年度に掲げた目標を初年度で達成した。開館翌年度の311,576人に次ぐ実績であったとともに、企画展の総入館者数が開館以降の最高数となったことは、指定管理者ならではの時宜を得た企画や、他にはない初の取組、効果的な営業・広報の取組が、結果として集客につながったものであると大いに評価できる。また、収支実績においても、計画以上の事業支出があったものの、支出に見合う観覧料収入を確保しており、効率的な運営がされたものと評価できる。</p> <p>②ミュージアムが蓄積してきた豊富な収蔵品を活用した企画展を開催し、企画展示室だけでなくアートギャラリーや映像ホール等でも企画を連動させるなど、ミュージアムが持つ多様な機能を活用しながら広く市民に公開するとともに、学芸員によるギャラリートークや専門家を招いた講演会等、教育普及事業の実施により作品への理解や関心を深めるための取組を行った。</p> <p>③中原区民祭当日や敬老の日の観覧料を無料にするほか、社会科教育推進事業における受入実績の増加、かわさき市美術展の活性化に向けた様々な取組等、集客事業に偏重することはなく、地域との連携や市民相互の交流の促進、教育普及事業においても指定管理者の創意工夫が発揮されている。</p> <p>以上のことから、平成29年度は概ね適正に指定管理業務が実施されたものと考ええる。</p>
--

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>指導事項</p> <p>○来場者数や収支実績は総合的に見ると良好だが、個々の事業を見るとバラつきがあるため、集客力が高い事業を基軸にして館内の回遊性を高めるなど、総合的にバランスの取れた事業実施に努めること。さらに、企画への満足度を測定できるよう、アンケート項目を工夫するなど、満足度の向上とさらなるサービス改善に向けて取り組むこと。</p> <p>○事業計画における収入・支出予定額の精度を高め事業計画に基づいた適切な事業の執行に努めること。</p> <p>○映画フィルムの上映権をはじめ、事業実施における権利関係の確認は遺漏のないよう確実にすること。</p> <p>要請事項</p> <p>○開館以来継続的に行ってきた地域の歴史・伝統・文化に関する資料の収集・調査研究活動を進展させ、その成果を市民等と共有するなど、ミュージアムが有する豊富な資産の活用に努めること。</p> <p>○指定管理初年度であり経験年数が浅い職員もいるが、労働条件や労働環境の整備などに努め、安定的な運営につながる効果的な組織体制の維持に取り組むこと。</p>
